

1. 科目名 (単位数)	解剖生理学Ⅱ (2単位)		3. 科目番号	EDHE2322						
2. 授業担当教員	宮下 俊雄・萩原 治夫									
4. 授業形態	講義、ディスカッション、質疑応答、課題発表。簡単な実験も行う。	5. 開講学期	秋期							
6. 履修条件・他科目との関係	「解剖生理学Ⅰ」を履修し単位を取得しておくこと									
7. 講義概要	解剖生理学Ⅱでは、解剖生理学Ⅰでの学習を基盤として、人体を構成している骨格系、筋系、神経系、感覚器系、内分泌系、脈管系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系の各器官系の成り立ちと生理機能について学習する。さらに各器官系を統合し、内部環境のホメオスタシスを維持している調節機構について学び、一生命体としての個体の営みはどのようになされているかについて考える。									
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体各部の組織・器官・器官系の名称とその位置を、自分の体で確認できるようにする。 2. 人体構造の発生、成長、老化について、動物進化の過程と関連付けて理解し、説明できるようになる。 3. 生体機能の調節機構、およびホメオスタシスの維持について理解し、説明できるようになる。 4. 脳機能の分化と発達について理解し、説明できるようになる。 5. ヒトの形態・生理機能と病気・ケガとの関連を理解し、基本的対応ができるようになる。 6. 病気の予防における基本的知識を深め、説明できるようになる。 									
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	レポート課題：(1) 循環系、(2) 感覚器系、(3) 人の生涯 に関して、その生理的機能と構造についてまとめる。それぞれレポート用紙に2枚程度。図やイラストを含めてもよい。参考文献を記すこと。									
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 開道貴信『3ステップ 解剖生理学』南江堂、2022。 【参考書】 照井直人 (編)『はじめの一步のイラスト生理学 改訂第2版』羊土社、2011。 その他、必要に応じてプリントを配布する。									
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体構造の特徴を踏まえて、各組織・器官・器官系機能の相互関連について理解しているか。 2. 簡単な実験から、生理機能について理解を深めたか。 ○評定の方法 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 70%;">1. 授業への積極的参加 (授業態度、発言)</td> <td style="text-align: right;">30%</td> </tr> <tr> <td>2. 課題レポート・発表</td> <td style="text-align: right;">30%</td> </tr> <tr> <td>3. 期末試験</td> <td style="text-align: right;">40%</td> </tr> </table>				1. 授業への積極的参加 (授業態度、発言)	30%	2. 課題レポート・発表	30%	3. 期末試験	40%
1. 授業への積極的参加 (授業態度、発言)	30%									
2. 課題レポート・発表	30%									
3. 期末試験	40%									
12. 受講生へのメッセージ	人体のしくみは神秘に満ちており、精巧にできています。授業中は、緊張感と集中力を保って受講し、質問して、人体のしくみを理解しましょう。 欠席、遅刻、早退をした場合は、その理由を必ず教員に書面をもって報告してください。 また、私語、無断退出、他の授業のレポート書きなど、授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処します。									
13. オフィスアワー	講義時間の前後									
14. 授業展開及び授業内容										
講義日程	授業内容	学習課題								
第1回	細胞小器官と細胞膜	事前学習	教科書 pp. 2～5 を読んでおく。							
		事後学習	細胞小器官と細胞膜の機能を理解する。							
第2回	消化	事前学習	教科書 pp. 20～23 を読んでおく。							
		事後学習	各消化管、消化腺の構造と機能についてまとめる。							
第3回	血液・凝固系の機能	事前学習	教科書 pp. 52～54 を読んでおく。							
		事後学習	血液・凝固系の機能についてまとめる。							
第4回	循環系の機能	事前学習	教科書 pp. 68～71 を読んでおく。							
		事後学習	循環器系の機能を理解する。							
第5回	呼吸	事前学習	教科書 pp. 84～88 を読んでおく。							
		事後学習	各呼吸器系の機能を理解する。							
第6回	泌尿器系の機能	事前学習	教科書 pp. 104～107 を読んでおく。							
		事後学習	泌尿器系の機能を理解する。							
第7回	内分泌	事前学習	教科書 pp. 124～128 を読んでおく。							
		事後学習	内分泌系の機能を理解する。							
第8回	神経系の機能	事前学習	教科書 pp. 144～147 を読んでおく。							
		事後学習	神経系の機能を理解する。							
第9回	感覚	事前学習	教科書 pp. 170～172 を読んでおく。							
		事後学習	各感覚器の機能を理解する。							
第10回	筋	事前学習	教科書 pp. 184～186 を読んでおく。							
		事後学習	筋収縮を理解する。							
第11回	免疫	事前学習	教科書 pp. 206～209 を読んでおく。							
		事後学習	免疫系の機能を理解する。							
第12回	皮膚組織と恒常性	事前学習	教科書 pp. 222～224 を読んでおく。							
		事後学習	皮膚と身体恒常性の関係を理解する。							

第13回	生殖	事前学習	教科書 pp. 236～239 を読んでおく。
		事後学習	ヒトの生殖機構を正しく理解する。
第14回	ヒトの一生	事前学習	教科書 pp. 252～255 を読んでおく。
		事後学習	ヒトの生涯を通じて身体に起こる変化を正しく理解する。
第15回	まとめ	事前学習	ノートなどにまとめてきたことを整理する。
		事後学習	解剖生理学全般について質疑・応答の内容を含めてまとめる。
期末試験			